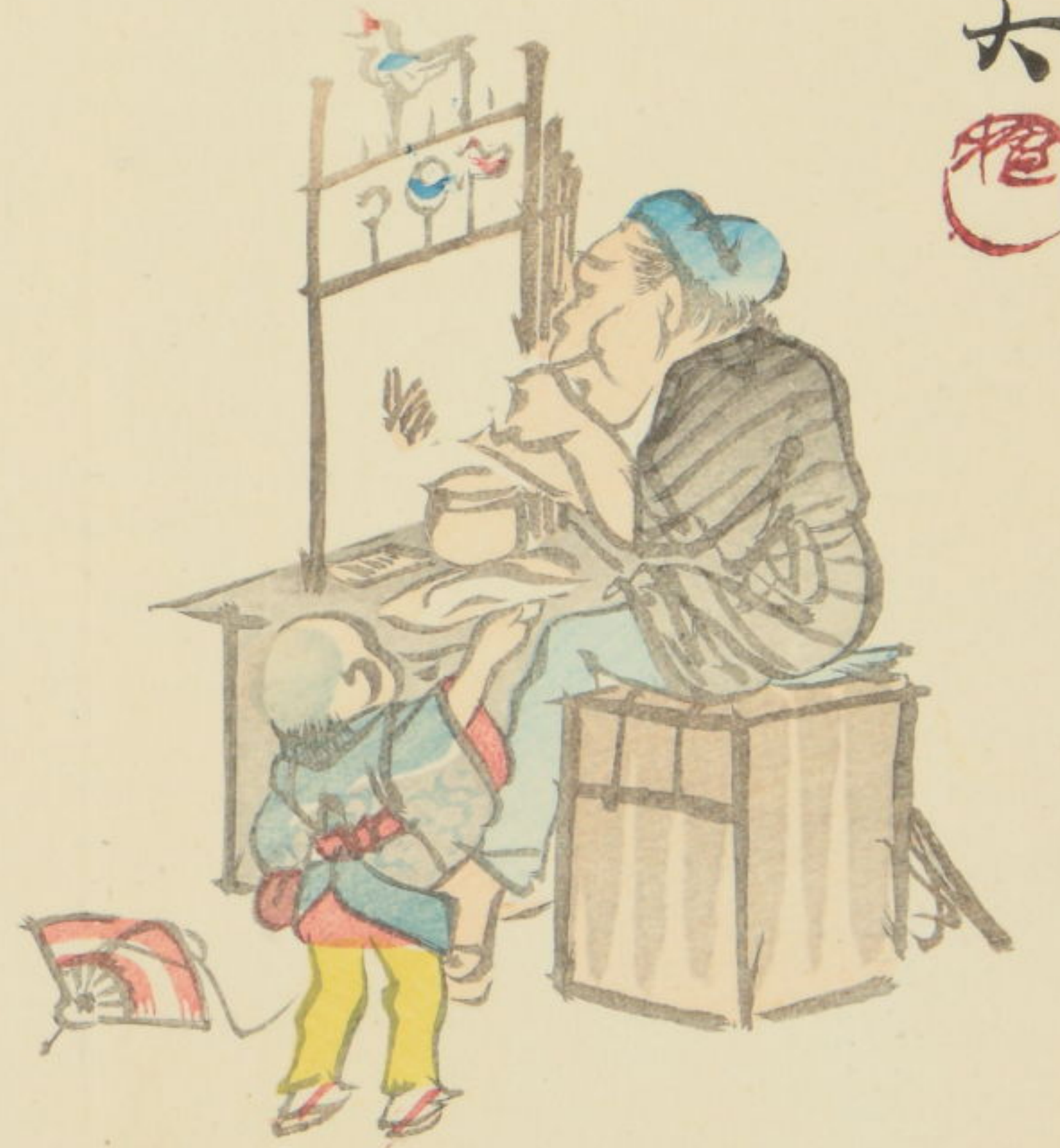




水六



此海老と云のり何れを解
 抱く子と申すもせん抑
 瓶をいふつらう孫一
 母の舟のせきて 唯れ
 ぬりくと背申たぬさ
 積るる物年らき光り
 こき押の巻ふ字つと
 衣振ふぬれお思也
 こつ東風をそあ支の
 れさきの礎ついでる
 ふとる采の白や梅の
 大福も孫も是る梅の
 山守も梅をさのの泉
 軒

草歌
 中
 女
 松
 麓
 三子
 孤
 左
 宿
 文
 家
 美

甲乙のさくつとめり
 庭もや 昔子らも
 昔野木の新娘も
 七叶也とれおとぬ
 ろこいといふは
 意のつひに梅の
 物とのさす子
 ろるぬき松の
 顔もさするも
 嫌しきとちめ
 梅の香もさす
 不
 角

松
 静
 入
 炎
 映
 青
 匠
 月
 信

明治十八年春





春日真

明鏡社



文庫31
B6
38
附

三
冊
目
録

萬
葉
集
卷
之
一
目
録
製
造
研
後
卷
岩
田
与
助



329a